



# 日本整形外科学スポーツ医学会 ニュースレター

No.16 2017年3月31日発行

## ■ 第42回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会報告

札幌医大整形外科 山下 敏彦

2016年9月16日～18日の3日間、札幌市において第42回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会を開催させていただきました。学術集会のテーマは、「From Rio to Tokyo: the mission of JOSSM」としました。学術集会の直前に開催されたりオデジャネイロ・オリンピックでは、日本選手団が金メダル12個、総メダル数41個という大活躍を繰り広げました。日本中がスポーツの感動と興奮で盛り上がり、2020年東京に向けての機運も高まる中で学会開催となり、狙い通りのタイムリーな学会テーマになったと思っています。

応募演題は過去最多となる340題にのぼり、このうち211題を口演、129題をポスター発表とさせていただきました。3日間の会期を通して1,255名の医師、メディカルスタッフ、学生等の皆様に参加していただき、無事盛会裏に終えることができました。

学会テーマに沿って、オリンピック、パラリンピックに関連するシンポジウム、企画などを多数取り入れました。シンポジウム「Rio2016オリンピックにおけるメディカルサポート」では、大会帯同を終え帰国されたばかりの先生方による臨場感あふれるホットな発表が行われました。また、「冬季オリンピックメディカルサポート」「パラリンピックメディカルサポート」のシンポジウムでは、今後に向けての様々な課題が浮き彫りにされました。

「オリンピックメダリストに聞く―腰部障害との戦い―」と題したトークショー形式の特別企画では、長野冬季オリンピック・スピードスケート金メダリストの清水宏保さんと銅メダリストの岡崎朋美さんに登場していただきました（写真1）。さすがにタレント活動をされているお二人です、腰椎椎間板ヘルニアの手術を乗り越えた苦労話も、ユーモアを交えて軽妙に語っていただき、大いに会場を盛り上げました。

特別講演として、内閣官房参与で2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長の平田竹男先生に



写真1：特別企画での清水宏保さん（左）と岡崎朋美さん



写真2：Dr. Allen Anderson（AOSSM プレジデント）

「2020年東京オリ・パラ大会に向けて」と題して、大会準備の中核におられる先生ならではの興味深いお話をいただきました。このほか、JOSSM前理事長の高岸憲二先生には「青少年野球選手の肩肘障害」に関して、首都大学東京教授の藤江裕道先生には「前十字靭帯のバイオメカニクス」に関しての特別講演をいただきました。

海外からの講演ゲストとしては、AOSSMプレジデントのDr. Allen Anderson（Tennessee Orthopaedic



写真 3: Dr. Theodore Miclau (UCSF, Orthopaedic Trauma Institute)



写真 4: Dr. Dean Matsuda (DISC Sports & Spine Center)



写真 5: 閉会式終了後の集合写真: 札幌医大整形外科教室員

Alliance) に「Treatment of pediatric knee injuries」について (写真 2)、2012 年の ORS 会長で外傷学に造詣の深い Dr. Theodore Miclau (Orthopaedic Trauma Institute, UCSF) に「Augmenting bone repair」に関して (写真 3)、股関節鏡視下手術の権威 Dr. Dean Matsuda (DISC Sports & Spine Center) には「Hip arthroscopy update and advance」のご講演を頂きました (写真 4)。さらに当教室

OB で UCSF Assistant Professor の長尾正人先生には「グローバル時代のスポーツ医学指導: 米国医学教育の実際」と題したご講演をいただき、いずれも好評を博しました。

この他、「成長期エリートアスリート」「女性アスリート」「中学校武道必修化」などに関するシンポジウム、「腰痛機能診断」「MD-PT・AT コラボレーション」などに関するパネルディスカッション、GOTS フェロー・プレゼンテーション、学生特別セッションなど、どの会場も盛り上がりを見せていました。

3 日間の学術集会の発表・討論を通して、「2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、現状におけるスポーツ医学的問題点・課題を明らかにし、JOSSM とその会員にできることは何かを考え、行動を起こしていく契機とする」という本学術集会の目標が、少しでも実現できたとしたら幸いです。

最後になりますが、学会に参加していただいた皆様、ご発表いただいた先生方、協賛いただいた企業の方々、学会運営スタッフや教室員諸氏に心より感謝いたします (写真 5)。

## ■ 第 43 回日本整形外科学会 スポーツ医学会 学術集会開催について

会長 帖佐 悦男



この度、「第 43 回日本整形外科学会 スポーツ医学会」を宮崎市で開催させていただきます。平成 5 年（1993 年）に田島直也前教授が第 19 回本学会を主催して以来、24 年ぶりに宮崎大

学医学部整形外科学教室が再び担当させていただくことを教室員一同大変光栄に存じます。

本会は平成 29 年 9 月 8 日（金）・9 日（土）に宮崎市のシーガイアコンベンションセンターにおいて開催致します。会場は、宮崎・つ葉海岸の豊かな景観の中に広がるリゾートコンプレックス「シーガイア」の中央に位置し、ダンロップフェニックスゴルフトーナメントや五郎丸選手をはじめ多くのトップアスリートが合宿したり、九州・沖縄サミットの外相会合の場でもあります。シーガイアは、英語で海を意味する「Sea」と地球を意味する「Gaia」を組み合わせた造語です。周辺には、古事記にも登場する神話が多くあります。（イザナギ、イザナミを祀る江田神社、イザナギノミコトは黄泉の国のけがれを清め、天照などの神様が生まれたみそぎ池や住吉神社の総社・元宮などがあります。）是非、多くの先生方にお越し頂き宮崎をご満喫頂けることを願っております。

日本整形外科学会（JOSSM）は、スポーツ医学の中でも特に運動器（整形外科）スポーツ医学を専門とされているメディカルスタッフを含めた様々な分野の方々が日本全国から一堂に会し、基礎的なことから臨床に至る最新の話題やスポーツ外傷・障害の予防・治療法などを討論したり親睦を深める場と思っております。

スポーツ医学の対象は、子どもから高齢者、障害者・健常者、健康スポーツから競技スポーツまで幅広く、全てを網羅してディスカッションできることも本学会の特徴の

一つです。競技力を向上させるためにも基礎体力は必要ですし、そのもとになる健全な運動器の発育は必須です。学校における運動器検診、野球検診などのスポーツ検診をはじめ高齢者のロコモ検診なども本学会が中心となり一層推進する必要があると考えています。さて、イングランドでのラグビーワールドカップ、リオのオリンピック・パラリンピックでは、日本中を感動の渦に巻き込みました。これから日本で開催されるビッグイベントでより一層感動できるようなスポーツ医学の分野からサポートできるように、“スポーツ医学イノベーション 継承と革新—RWC2019, Tokyo2020—”をテーマと致しました。JOSSM2017 のポスターにありますように、子どもたちが世界に羽ばたいてくれることを祈念しています。

今回は、宮崎にゆかりのあるスポーツ選手に特別講演をお願いしております。

海外からの招待講演としまして、AOSSM（米国整形外科学会）会長の Professor Annunziato Amendola ならびに KOSSM（韓国整形外科学会）会長の Professor Churl-Hong Chun、British Paralympic Association の Professor Victoria Louise Tolfrey をお招きします。

ランチョンセミナー、シンポジウム、パネルディスカッションなども予定しております。ご高名な先生方からスポーツ医学に関する最近のトピックスが拝聴できますことを楽しみに致しております。

また宮崎らしい様々なスポーツアクティビティも計画していますので、是非あわせてご参加ください。

最後になりますが、今回も会期を例年通り金曜・土曜日に設定しております。宮崎は“太陽と緑の国”、“神話の里”とも呼ばれており、シーガイア周辺のみならず西都や高千穂は「古事記」「日本書紀」に登場する天孫降臨や天岩戸開きの地でもあります。他にも宮崎には魅力的な観光地や美味しい食がたくさんございますので、学会でのご活発な討論の後は、是非太陽あふれる景色や食をご堪能頂けたらと思います。皆様にお出でいただくことを心よりお待ちしております。



## 2016 JOSSM-USA Traveling Fellow 報告記

札幌医科大学医学部整形外科 寺本 篤史

2016年7月6日から7月24日までの19日間、慶友整形外科の古島弘三先生、岡山大学整形外科の古松毅之先生とともにJOSSM-USA Traveling fellowとして米国スポーツ整形外科の代表的な施設を訪問させていただきました。はじめにコロラドスプリングスで開催されたAOSSM annual meetingに参加し、スポーツ整形外科のトピックスを学びました。私の専門とする「足」は古島先生専門の「肘・肩」、古松先生専門の「膝」と比較して演題が少なく、少し寂しい部分もありましたが、syndesmosis 損傷におけるバイオメカニクス研究など私にとって興味深い発表が多数あり、大変勉強になりました。その後はサンフランシスコのUCSF、サクラメントのUC Davis、シカゴのRush Univ.、そしてロサンゼルス のKerlan-Jobe clinic の4施設をそれぞれ数日ずつ訪問しました。

特に、UC Davis では足を専門とするホストの Dr. Eric Giza に大変良くして頂きました。というのも、初日の施設見学、レクチャーだけに留まらず、2日目にはキャダバーによるサージカルトレーニングの機会を頂きました。Dr. Giza のデモンストレーションが勉強になったのはもちろんのこと、私自身も足関節鏡を用いた新しい手技にたくさん挑戦することができました。足が専門ではない古島先生、古松先生も楽しみながらトレーニングを経験していたようでした。3日目には距骨骨軟骨損傷や足関節外側靭帯損傷に対する手術を中心に、たくさんの足関節鏡下手術を見学させていただきました。

他の施設でも手術見学はもちろんのこと、基礎研究施設の見学、カンファレンスへの参加、そして私達の研究発表の機会も与えていただきました。どの施設もホストを中心に連日豪華なディナーを用意して頂き、多くの米国スポーツ整形外科医と交流を深めることができました。たくさんの先生と親しくなれたことが一番の収穫だったかもしれません。期間中はトラブルに見舞われることもなく、快適で楽しい研修を3人で送ることができました。これは何より大変貴重な経験の機会を与えていただいた高



写真1：AOSSM annual meetingにて。左から古松先生、寺本、古島先生。



写真2：UC Davisでのサージカルトレーニング。左2番目から順に古島先生、寺本、古松先生、Dr. Giza。後方の長身は Dr. Kreulen。

岸憲二前理事長、松本秀男理事長、別府諸兄国際委員会アドバイザー、菅谷啓之国際委員会担当理事、熊井司国際委員会委員長をはじめ、JOSSM 会員の皆様のおかげであり、深く御礼申し上げます。また、JOSSM 事務局の斉藤さん、札幌医科大学整形外科の山下敏彦教授と教室員の皆様にも深謝いたします。

## 2016 JOSSM-USA Traveling Fellow 報告記

慶友整形外科病院スポーツ医学センター 古島 弘三

2016年7月6日から7月23日までの期間、今回は、岡山大学整形外科の古松毅之先生と札幌医科大学整形外科の寺本篤史先生との3人でのトラベリングフェローでした。まず、アメリカスポーツ医学学会（AOSSM）（in コロラドスプリングス）に参加してポスター発表し、続いてUCSF Medical Center（in サンフランシスコ）、UC Davis（in サクラメント）、RUSH university（in シカゴ）、Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic、White Memorial Medical Center（in ロサンゼルス）の4都市5病院を回らせていただきました。それぞれの病院でホストドクターによるあたたかいもてなしを受けることができました。ひとつ残念なのはKerlan-Jobe Orthopaedic Clinicでは、ホストドクターが突然不在となったことで、見たかった手術がみられなかったことがありました。しかし、このトラベリングフェローのメリットは、普段接することのできないアメリカでの有名なドクターらと気軽に話ができる状況にある

ことだと思いました。内気な私は学会場ではあまり話しかけることができませんが、酒を飲みながら隣の席に座っていると楽しく会話ができました。

そしてまた、日本の医療が遅れていることはないということを実際に目で見て、またUSAのドクターがどんな手術しているのかをみられるいいチャンスでした。系統的に日本には真似できない部分もありますが、違いを知るところもいい経験になりました。この短期留学で得られたものは、一期一会的な出会いがたくさんあり、USAのドクターらとの交流が充実したものになったことでした。今後これを生かすかどうかは己自身になってくと思いますが、貴重な時間を過ごすことができました。最後にこの場をかりて、事務局の斉藤しおりさん、そして大変貴重な機会を与えていただいた高岸憲二先生、松本秀男先生、別府諸兄先生、菅谷啓之先生、熊井司先生には深謝いたします。ありがとうございました。



## ■ 2016 JOSSM-USA Traveling Fellow 体験記

岡山大学大学院整形外科 古松 毅之

この度、日本整形外科スポーツ医学会（JOSSM）が主催する「2016年度JOSSM traveling fellowship」の一員として、4カ所のスポーツ医療関連施設を訪問するとともに、アメリカ整形外科スポーツ医学会（AOSSM）学術会議に参加する機会に恵まれました。日本から3名のスポーツ整形外科医が選出され（写真1）、アメリカ国内での19日間におよぶ充実した研修を行うことができました。今回のtraveling fellowshipへの参加は、私にとって整形外科医師としての視野が広がっただけではなく、人生における貴重な経験となりました。これは特筆すべきことですが、今回の研修先のスタッフをはじめfellowship関係者の親切な対応は、本当に素晴らしいものでした。また、研修プログラム・リクリエーションプラン・移動スケジュールもわれわれJOSSM fellowに配慮してくださり、短い滞在期間でいかに有意義で楽しい研修を提供できるかについて十分に考慮されたものでした。今後は、AOSSMからのtraveling fellowをJOSSMで受け入れる計画があるそうですが、岡山大学病院での研修ということになれば「日本のおもてなしの心」を存分に感じていただくために努力しようと思います。

2016年度のJOSSM traveling fellowship関係者の方々、研修先のホストをはじめする医療関係者の方々、

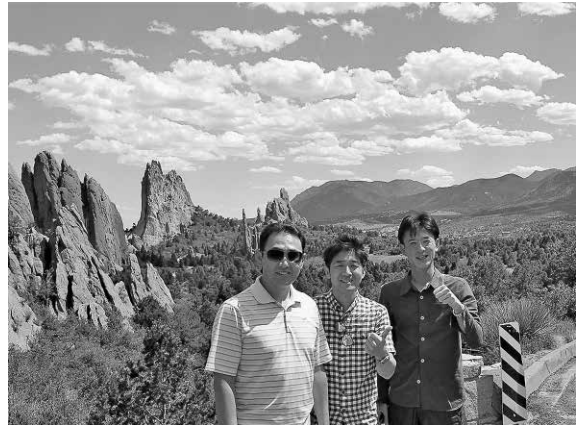


写真1：Garden of the Gods（Colorado Springs）にて。2016年度JOSSM traveling fellowとともに（左から慶友整形外科病院の古島弘三先生、札幌医科大学整形外科の寺本篤史先生、筆者）。

渡米前およびfellowship期間中に私を支えてくださった岡山大学整形外科の皆様、fellowshipにつきアドバイスいただきました松浦哲也先生・田崎篤先生・田島卓也先生をはじめ多数の先輩方、そして家族に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



## ■ お知らせ

### 1. ニュースレターの冊子発行について

日本整形外科スポーツ医学会 ニュースレターは、今号（No.16）を持ちまして紙媒体での発行を終了することになりました。次号（No.17）より、本学会ホームページ上でのオンライン発行のみとなります。

(<http://www.jossm.or.jp/news/index.html>)。

### 2. Online Journal について

本学会では、会員の先生方の利便性を図るため、2015年発行の第35巻第1号より、オンラインによる学会雑誌の閲覧が可能になりました。オンラインジャーナル専用サイトは学会HPのメニューからリンクしております。

なお、会員向けサービスとなりますため、閲覧にはID/Passwordが必要となります。

### 3. スポーツ損傷シリーズ

スポーツ損傷シリーズは、本学会監修の患者・関係者説明用パンフレットとして、現在、No.30まで制作しています。これまでは冊子のご提供のみでしたが、昨年より、学会ホームページにてPDFファイルの保存および印刷が可能になりましたので、是非、ご活用ください。

本シリーズ掲載の記事・写真・イラスト等の無断使用は禁止しています。使用する場合は、学会事務局まで申請をお願いします。

◆『スポーツ損傷シリーズ』URL ⇒ <http://www.jossm.or.jp/series/index.html>

### 4. 学校医・養護教諭のための、成長期の運動器検診の手引き

2016年4月より全国の学校で実施されている運動器検診用の資料として、本学会にてパンフレットを作成しました。学会ホームページにてPDFファイルの保存および印刷が可能ですので、是非、ご活用ください。

◆『成長期の運動器検診の手引き』URL ⇒ <http://www.jossm.or.jp/series/index.html>

### 5. 会員登録情報の変更、メールアドレスの登録について

勤務先、自宅、メールアドレスに変更がありましたら、お早めに事務局あてメールにてご連絡ください。(info@jossm.or.jp)

ご連絡がない場合、学会雑誌をはじめ事務局からのご案内がお手元に届かないことがありますのでご了承ください。また、日々のご連絡の他、学会情報や演題登録のご案内など、今後は一斉メールを活用して事務局からのご案内を送りいたしますので、メールアドレスをご登録いただいていない方は、事務局あてご連絡ください。

## 6. American Journal of Sports Medicine (AJSM) の購読について

本学会の会員は、American Journal of Sports Medicine (AJSM: 年 12 冊発行) を特別優待価格で購読することができます。

	一般価格	特別優待価格
AJSM 購読	\$183.-	\$102.-
オンライン購読	一般向けサービスなし	\$ 30.-

AJSM 購読、オンライン購読のいずれかにお申し込みいただくと、1972 年の創刊号以降の全刊行物にアクセスが可能になります。

特別優待価格での購読を希望される会員の方は、事務局あてにメールにて購読希望である旨をご連絡ください。(info@jossm.or.jp) 追ってお申し込みについてのご案内をお送りしますので、各自で購入手続を進めてください。

### 編集後記

来年は、平昌冬季オリンピック・パラリンピックが、そしていよいよ3年後には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。日本の選手たちは、昨年のリオでは、史上最多のメダル数を獲得して、東京でのさらなる活躍が期待されます。また冬季では、女子アイスホッケー日本代表は、早々と前回のソチに続いて平昌出場を決定させ、日本国中大いに盛り上がりを見せています。一方で昨年、イギリスでは、国民投票でEU離脱が決定し、アメリカでは、トランプ大統領が選出されました。国と国の垣根が低くなって行く傾向から一転、国内を重視する内向きに世界中が向いているとも言われています。オリンピックは、それぞれの国の国威を誇示する側面もありますが、5大陸を象徴する五輪のシンボルが表すように世界の国々の結合と連帯を目指しています。スポーツ選手のプレイは、見る人に国内外を問わず感動を与えます。整形外科医の技術は、国内外を問わず人のためにあり、そしてスポーツ選手を支えるものです。スポーツと整形外科学を通して世界中の人々がお互いに興味をもち、理解が深まり、ひいては平和な世界の構築の一助になることを切にのぞみます。

(村 成幸)

日本整形外科学スポーツ医学会 ニュースレター No.16 2017年3月31日発行

編集：日本整形外科学スポーツ医学会広報委員会

金岡 恒治 (担当理事)、平野 篤 (委員長)、亀山 泰 (アドバイザー)、酒井 宏哉 (アドバイザー)  
今田 光一、高橋 敏明、村 成幸、安田 稔人

発行：一般社団法人日本整形外科学スポーツ医学会

〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル 株式会社コングレ内

TEL 03-3263-5896 / FAX 03-5216-3115

E-mail info@jossm.or.jp URL http://jossm.or.jp/